

自在R連続基礎

製品概要

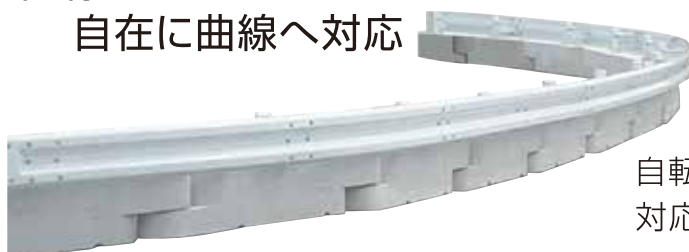


連続構造物とする事で衝突時の安定が確保されます

B型 幅400×高450	A型 幅630×高450	S型 幅650×高600	H型 幅750×高500

自在R

直線からカーブへ
自在に曲線へ対応



自転車のチェーンをイメージし、カーブに自在に対応できるプレキャスト連続基礎となっています

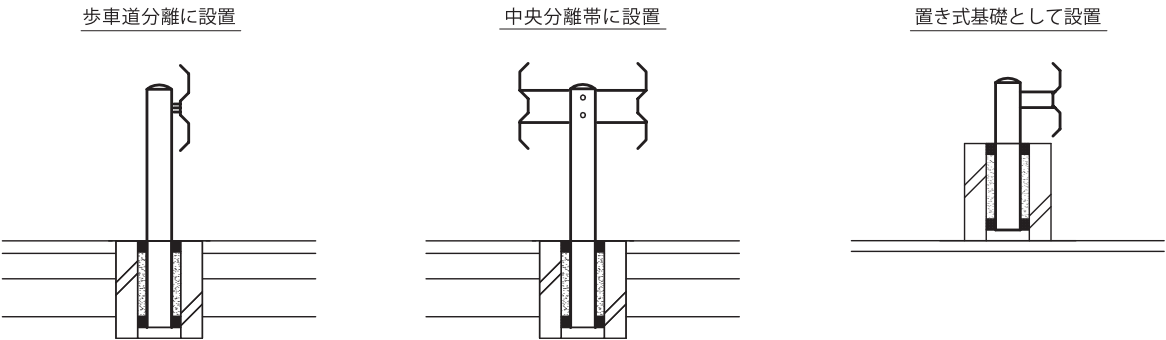
工期短縮

地中埋設式の、現場打ち連続基礎と自在R連続基礎ブロックを比べると、型枠の設置やコンクリート養生に要する時間を短縮でき、さらに、強度の発生による供用開始までの期間が約1/3の施工期間で行うことができます。



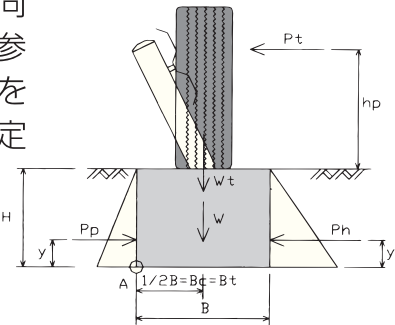
自在R連続基礎

・ 使用例



・ 安定計算

車両用防護柵標準仕様・同解説の連続基礎の設計を参考に、連続延長で衝突荷重を受け持つという考えで、安定計算をしています。



- 設計条件
- 衝突高さ..... $h_p=0.6\text{m}$
 - コンクリートの単位体積重量..... $\gamma_c=23\text{kN/m}^3$
 - 土の単位体積重量..... $\gamma_t=19\text{kN/m}^3$
 - 土の内部摩擦角..... $\phi=30^\circ$
 - 基礎地盤の摩擦係数..... $\mu=0.6$
 - 基礎地盤の許容支持力..... 300kN/m^2
 - 輪荷重..... $W_t=25\text{kN}$
 - 受働土圧.....考慮する

種別	衝突荷重(kN)
C	30
B	30
A	55
SB	80

歩行者の安全確保

暫定共用箇所へ

車線の絞込みに

自在R連続基礎は、車両用防護柵標準仕様・同解説の連続基礎の設計を参考に、連続延長で衝突荷重を受け持つという考えで、安定計算をしています。

・ 設置歩掛り

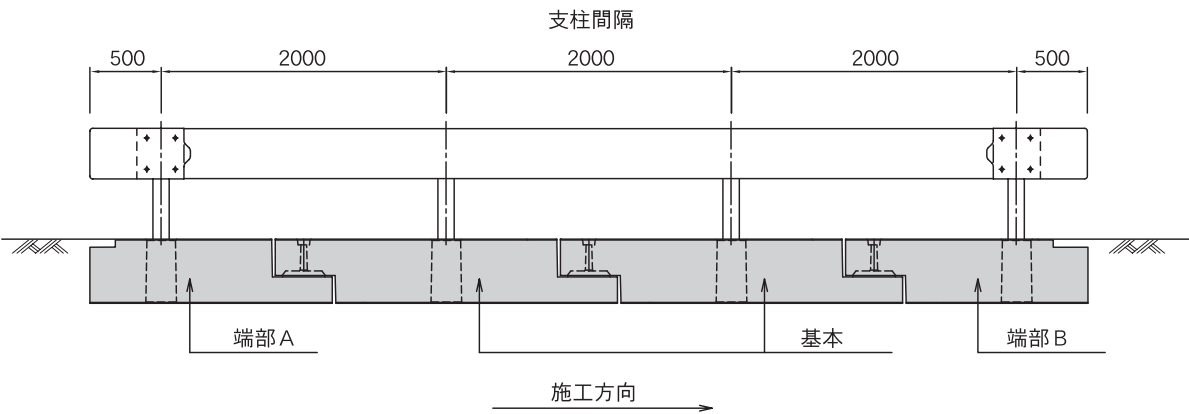
		10m当り	
名称	H型・S型・A型 数量	B型 数量	単位
土木一般世話役	0.21	0.14	人
特殊作業員	0.21	0.14	人
普通作業員	0.42	0.28	人
連続基礎ブロック	5.00	5.00	個
トラッククレーン賃料(4.9t吊り)	0.21	0.14	日
諸雑費	4.00	4.00	%
合計			

※長尺L型側溝の設置歩掛りを引用しております。

自在R連続基礎

• 製品構成

接続詳細図



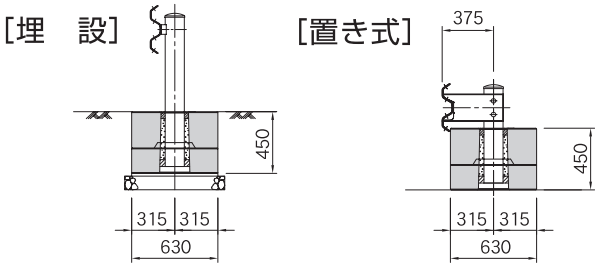
• B型(400×450) 支柱間隔 2.0m、1.5m、1.0m

規格	基本	端部A	端部B
断面			
重量	778kg	547kg	566kg
規格	基本(1m)	端部A(1m)	端部B(1m)
断面			
重量	346kg	257kg	274kg

自在R連続基礎

A型(630×450)

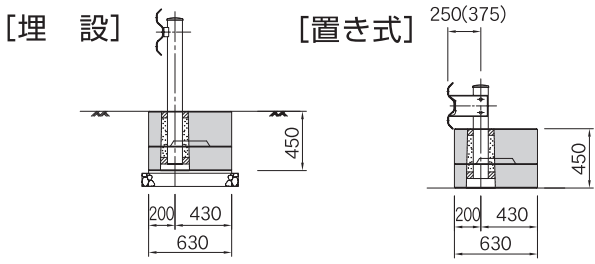
※防護柵支柱をベースプレート式(P.9参照)とすることにより、大幅な工期短縮が可能です。



規格	基本	基本 3m	端部A	端部B
断面				
重量	1202kg	1846kg	820kg	883kg

A型偏芯タイプ(630×450)

※防護柵支柱をベースプレート式(P.9参照)とすることにより、大幅な工期短縮が可能です。



規格	基本	基本 3m	端部A	端部B
断面				
重量	1202kg	1846kg	820kg	883kg

製品構成

接続詳細図

